

8-14

テーマ 心躍る音楽を奏でよう

音楽活動(ブンネ法)

サブ
テーマ ブンネ法を使用した集団援助の実践

資する能力の維持向上

研究期間 15 ヶ月

事業所 東大和市ふれあいデイセンター ひかり苑

発表者：(生活相談員) 増井進吾

アドバイザー：SQC代表取締役 ヨアキム カウト

共同研究者：(ブンネ法講習修了者) 守山文雄、(介護員) 黒田尚志、(嘱託PT) 仙道田洋登

電 話 042-398-1831

メール hikari-fureai@douen.jp

FAX 042-398-1804

URL <http://www.hikarien.com>今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

ひかり苑は、社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会を母体とし、特別養護老人ホーム、ショートステイ、居宅介護支援事業、デイサービスの4つの事業を展開しております。デイセンターひかり苑は、定員12名の地域密着型認知症対応通所介護事業のモットーは「親切・丁寧・誠実」であり、地域福祉の拠点施設として「先駆的なサービス」を発信しています。

《研究前の状況と課題》

1. 利用者のニーズに沿ったプログラムを検討している際、SQC(スウェーデン・クオリティ・ケア)より発信されているスウェーデンの先駆的な「ブンネ法」に出会った。
2. 楽器に対する知識や技術がなくても、専用楽器を使用して誰でもが、演奏活動に参加できる手法になっている。
その最大の特徴は、音楽を通してコミュニケーションの向上、心身機能の維持向上も可能となり、今までにない先駆的な音楽(楽器)を使用して、身体的・精神的な能力に働きかける日常ケアの実践を開始した。
3. ブンネ法を用いたケアを受ける前と受けた後の身体機能比較を肺活量にて評価し、参加利用者と不参加利用者にての優位性を検証する。
4. 社会参加を視野に入れた利用者への生きがい活動の創造を行い、地域への先駆的なサービスの発信を試みる。

《研究の目標と期待する成果》

1. 研究の目標
 - 1) 集団援助(グループワーク)を見直す。
 - 2) ブンネ法の援助技術を参考にして、ひかり苑オリジナルなケアを構築する。
 - 3) ブンネ法の演奏を披露することにより、地域への社会参加を図る。
 - 4) 健康の基本となる肺活量の向上を図る。
2. 期待する成果
 - 1) 認知症の方の記憶能力の活性化・改善
 - 2) 言語機能(発声能力)の活性化を図り、コミュニケーション能力の回復
 - 3) 機能訓練による心身能力の維持向上
 - 4) 肺活量及び体力の維持向上
 - 5) 利用者の楽しみ、生きがい、やりがいの充実による日常生活の活性化
 - 6) 地域密着型認知症対応通所介護事業所としての役割、理想とするサービス提供のPDCAサイクルの検証

《具体的な取り組みの内容》

1. 準備段階

- 1) 研修：ブンネ法基本コースA（2日間）
- 2) 物品購入：専用楽器（スウィングパーギター、ミニベース、単音フルート、チャイムパー）計 251,580 円、肺活量計測機器 18,000 円、その他諸費用（若干）

2. ブンネ法の実践

- 1) 参加者：利用者 8 名程度、職員 4 名程度
- 2) 時間：30 分～60 分以内
- 3) 場所：比較的大きく、明るい静かな部屋

3. ブンネ法の一連の流れ

テーマメロディー（シグナル効果）⇒挨拶の曲（自己意識の高揚）⇒楽器伴奏⇒終了の曲

4. 効果測定方法

肺活量計測器を用いて、初回から 10 回間隔でブンネ法開始前と終了後の対象利用者の肺活量を測定し、年齢に応じた平均肺活量との比較及び評価を行った。また、参加利用者と不参加利用者の肺活量比較及び評価を行うことで、ブンネ法の優位性を検証した。

5. 社会参加を目的とした実践

地域にて演奏発表する場を設け、利用者の社会参加及び生きがい活動の場面を設定した。

6. 演奏公演

- 1) 地域住民を対象とした、サマーコンサート（観客 1,000 名）で演奏する。
- 2) 法人主催の福祉サービス研究発表会（観客 500 名）で演奏する。

《取り組みの結果と評価》

1. 自己紹介を組み込み、本日のテーマとして「好きな物・好きな言葉・趣味・好きな色・季節」など、活動時の会話を一本化することにより、発言が増え自己意識の高揚が見られた。
2. ブンネ法の流れの中、ひかり苑オリジナルな一連の流れを検討した結果、テーマメロディーの前及び、終了の曲の後に利用者の挨拶を導入することで、本人のアイデンティティー（主体性）を引き出し、多くの笑顔が見られた。
3. 音楽（リズム）により、自然と身体が動き、機能面の維持向上へとつながった。
4. 肺活量測定により、開始前と終了後の肺活量の向上と不参加利用者との比較では、参加利用者の優位性が認められた。

《まとめ》

1. ブンネ法を取り入れてからは、他の活動にも積極性が見られ、発言が増えた。
2. 職員の集団援助技術が向上した。
3. 基礎となる肺活量の向上により、在宅生活での安定が図られたと、家族インタビューにて検証された。

《参考文献》

テキスト 『ブンネ法 基本コースA』

SQCホームページ

<http://www.swedishqualitycare.jp>

《提案と発信》

今回の研究を通して、スウェーデンの先駆的なケアを学びました。その中で、ひかり苑の日本的なケアとの融合により、オリジナリティーの高い集団援助方法の構築を模索しています。また、利用者の生きがいとなる社会参加型の活動としました。他事業所の皆様方、日常のケア（心身機能の維持向上）をご検討中でしたらスウェーデンの先駆的なケアの取り組みが、良い機会になると考えます。

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。